

新人看護師の OFF-JT と OJT の統合を目指した シミュレーション教育の効果と課題

キーワード：シミュレーション 新人教育 OFF-JT OJT

C 棟 6 階病棟

○中村 展子 山本 真由美 山本 美弥 杉田 尚子
金本 恵子 稲田 充代 辻本 啓子

I. はじめに

教育方法には、OFF the job training:職場外教育（以下 OFF-JT とする）と On the job training:職場内実施教育（以下 OJT とする）があり、得られる教育効果は異なる。当病棟では、これまで OFF-JT と OJT による新人教育を行ってきたが、OFF-JT が中心となっており、臨床実践との乖離が大きいことが問題であった。

そこで、今回われわれは、OFF-JT と OJT を統合し、看護実践のイメージ化を促進するために、臨床能力の強化に繋がるとされている統合シミュレーション教育を導入した。本研究では、統合シミュレーション教育の課題を抽出することでより質の高い当病棟新人教育プログラムを構築するために、一連の教育過程の効果を検討した。

II. 目的

OFF-JT と OJT の統合を目指した、効果的なシミュレーション教育方法を検討し、今後の課題を抽出する。

III. 方法

対象:当病棟に勤務する新人看護師 4 名

調査期間:2009 年 4 月～2009 年 12 月

シミュレーション方法: 肺がん術後 1 日目の
胸腔ドレーン・尿道留置カテーテル・硬膜外

麻酔チューブ・末梢静脈ライン挿入中の患者を想定し、研究者が患者役となりシミュレーションを行った。シミュレーションは、院内基礎看護技術研修を終えた、入職 1 ヶ月目・入職 3 ヶ月目に行い、無菌操作・シリンジポンプ取扱い・静脈点滴管理・尿道留置カテーテル管理・胸腔ドレーン管理の 5 項目について技能の習得度を評価した。

面接方法:入職 3 ヶ月シミュレーションを終えた頃の様子を想起してもらいインタビューした。質問内容は、「シミュレーションが日々の看護にどのように役立ったか」とし、承諾を得た上で録音した。

評価方法:入職時の院内基礎看護技術研修後、入職 1 ヶ月シミュレーション後、入職 3 ヶ月シミュレーション後に「無菌操作」7 項目、「シリンジポンプ取扱い」「静脈点滴管理」「尿道留置カテーテル管理」「胸腔ドレーン管理」各 10 項目の計 47 項目について「できない:1」「助言があればできる:2」「できる:3」の 3 段階にスコア化した評価用紙の記入を依頼し回収した。各項目、4 名の合計点数を、入職時の院内基礎看護技術研修後、入職 1 ヶ月シミュレーション後間および入職時の院内基礎看護技術研修後、入職 3 ヶ月シミュレーション後間で Mann-Whitney U 検定を用い統計処理を行った。また、インタビュー内容を逐語録とし、それぞれの逐語録の文節ごとにその

文脈の意味を検討した。検討したものを文脈の意味より類似のものにカテゴリー化し、それぞれのカテゴリーの意味を検討した。目的に関連している要因を明らかにし、要因の意味、要因間の関連より新人看護師への統合シミュレーション教育に関連するものを導き出した。

IV. 倫理的配慮

本研究は、当院看護部・看護研究倫理委員会の承認を得た。評価用紙は無記名とし、研究への参加の有無で不利益を蒙ることはないこと、データは個人を評価するのではないこと、研究目的にのみ使用することを文章で説明し同意を得た。

V. 結果

「無菌操作」「シリンジポンプ取扱い」「静脈点滴」「尿道留置カテーテル管理」において、全ての項目で、 <0.05 と有意差が得られた。シミュレーションでは OFF-JT より教育効果は有意に得られた。

「胸腔ドレーン管理」では、10項目中、リークの観察^{表1}・ディオールバックの構造の理解^{表2}・正しい固定方法の理解^{表3}・固定の観察^{表4}の4項目において、「リークの観察の1ヵ月後」以外は有意な教育効果がみられなかった。

面接より、カテゴリー:《臨床への応用・イメージ化》「実際に行動できた」「想像しやすくよかった」「イメージがわいた」「観察の足りなさに気付けた」「末梢やドレーンが入っているだけで焦りがあったが落ち着いて見られるようになった」「忘れていたことに気付かされた」「不安なまま患者をみるよりよかった」「7月は慣れてきて夜勤も入る時期で再確認にためよかった」、カテゴリー:《学習を課せられることへの負担感》「5月6月が一番しんどい時期だった」「5月は覚えることがいっぱいありすぎて自分の学習が追いつかなかった」「5月は仕事もぜんぜん出来ないし、シミュレーションに頭がいかない」という発言が得られた。

表1 胸腔ドレーンのリークの有無を観察できる

	OFF-JT	1ヵ月	3ヵ月
A	2	2	2
B	2	3	3
C	2	3	3
D	1	3	2
P値	C	<0.05	ns

表2 デイオールバックの構造を理解している

	OFF-JT	1ヵ月	3ヵ月
A	2	2	2
B	2	2	3
C	1	2	2
D	1	2	2
P値	C	ns	ns

表3 胸腔ドレーンの固定の方法を知っている

	OFF-JT	1 ヶ月	3 ヶ月
A	2	2	3
B	2	2	3
C	1	2	2
D	1	3	2
P値	C	ns	ns

表4 きちんと固定されているか観察できる

	OFF-JT	1 ヶ月	3 ヶ月
A	3	3	3
B	2	3	3
C	2	2	3
D	2	3	2
P値	C	ns	ns

適切な看護行動を獲得できた。

VI. 考察

今年度より、院内基礎看護技術研修が導入され、OFF-JTは強化されたが、そこで経験した基本的知識・技術を活かすためには、病棟での補足的関わりが必要であった。しかし、すべての項目を行うことは、時間的・マンパワー的限界があった。そこで、当病棟の特殊性を考え必要な技術を選択し、肺がん術後患者を想定した統合シミュレーション教育を導入した。面接結果より、「病棟ではこうするのかとわかった」「観察点がわかった」「シミュレーション後、実際に行動できた」「想像しやすかった」「落ち着いて見られるようになった」という発言が得られた。これらより、OFF-JTで経験した基本的知識・技術を臨床実践に活かすために導入した統合シミュレーション教育の効果として、《臨床への応用・イメージ化》が示唆された。さらに、各手技の習得度についても統計学的に有意に高まっていたことから、統合シミュレーション教育により、課題が重なる複雑な状況における臨床判断と

しかし、「胸腔ドレーン管理」においては、有意な教育効果が得られなかった。その要因の1つとし、他の技術に比べて複雑であり、高レベルの知識が求められること、特殊性が高い技術であることが考えられる。また、当病棟では、胸腔ドレーン管理は、ほとんどが肺がん術後患者での体験であるが、肺がん術後患者は、概ねICUに入室する。しかし、入職3ヵ月時点では、ICUからの転棟患者を受け持つことがないため、他の技術と比較し、各段に体験する機会は少なく、《臨床での経験数の差》が影響していると考えられる。

面接結果より、統合シミュレーション教育の教育効果を妨げる要因として、「5月は覚えることがいっぱいありすぎて自分の学習が追いつかなかった」「学習会が最初に詰められていてしんどかった」と時間的・精神的負担感を表す発言が得られた。シミュレーション教育に加え、シミュレーション教育の予習・復習、臨床業務の学習が重なり、入職1ヶ月時

点では《学習を課せられることへの負担感》を感じていたと考える。

今回、シミュレーション教育をするにあたり、実施時期を1回目は、早期より専門職業人として歩み出す環境を整えるため入職1ヵ月後に、2回目は、新人看護師の離職のピークである3ヵ月後に設定した。日本看護協会による「新卒看護師の早期離職等実態調査」によると¹⁾、「新卒看護職員が、もっと受けたかった教育・研修」として、「配属先に専門的に必要とされる技術」があげられている。病棟の特殊性を踏まえたシミュレーション教育は、OFF-JT だけでは習得できない専門的技術を習得することにつながり、新人の教育ニーズを満たす働きかけであるといえる。OFF-JT と1ヵ月シミュレーション・3ヵ月シミュレーションには有意な差がみられたことから、《学習を課せられることへの負担感》を感じながらも、教育効果はあったと考える。

また、統計学的にも有意な教育効果があること、面接結果より、「以前に教えてもらったことの振り返りができた」「病棟ではこうするのか、とわかった」等の発言が得られたことから、シミュレーション教育により、OFF-JT と OJT の統合が出来たと言える。

しかし、結果より、入職1ヵ月時点では、時間的・精神的負担感を感じている、と導き出された。時間的・精神的負担感は、新人のモチベーションの維持・向上を妨げると思われる。モチベーションを向上させる最も効果的な手段は、スタッフを増員し、教育を行うに十分な時間や機会を設けることである。また、シミュレーション教育に精通したスタッフがいることも、新人及びスタッフにとって、負担感の軽減に繋がると思われる。

今回のシミュレーションを通し、教育効果が得られなかった「胸腔ドレーン管理」のような、専門性の高い項目の指導については、時間的・精神的な負担感の軽減に努めること及び、他の項目も含めた教育方法の検討を、

実施時期も視野に入れ行う必要がある。今回は、初年度の取り組みであり、対象人数も少ない。したがって、引き続きシミュレーション教育を中心に OJT の充実を図った新人教育の実施・検討、2年目看護師の技能習得度調査を実施するなど、研究対象を広げ検討する必要がある。

VII. まとめ

- ・シミュレーション教育は、OFF-JT と OJT の統合に効果的であった
- ・「胸腔ドレーン管理」においては、有意な教育効果が得られなかった
- ・時間的・精神的負担感の軽減、他の項目も含めた教育方法の検討、項目別の実施時期の検討を行う必要がある

VIII. 文献

- 1)日本看護協会;2004年「新卒看護職員の早期離職等実態調査」結果
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/03/dl/s0329-13b-5-3.pdf#search='新卒看護職員の早期離職等実態調査'>
- 1)櫻井利江;看護基本技術教育の具体的展開方法. 看護研究. Vol.40 No.1,2007
- 2)福井トシ子;新人看護師の基礎看護技術習得に関する調査. 看護. Vol.61 No.5,2009
- 3)大川宣容;高知女子大学での取り組み - 急性期看護援助論における術直後シミュレーション演習 -. 看護教育. Vol.50 No.9, 2009
- 4)竹尾恵子;新人看護職員のための研修プログラムの現状. 看護教育. Vol.48 No.12,2007
- 5)宮澤朋子;新卒看護師の精神的未熟さ・弱さに対するスタッフ看護師および新卒看護師自身の認識. 長野県看護大学紀要 10:69 - 78,2008
- 6)阿部幸恵;看護教育で有効なシミュレーション教育とは. 看護教育. Vol.50 No.9,2009
- 7)佐藤エキ子;新人看護師の受け入れに向け

てこれから必要になること。看護管理。

Vol.17 No.3,2007

8)高橋恵;山陽看護専門学校での取り組み。看護教育。Vol.50 No.9 2009

9)水口艶子;新人看護師の育成。看護。Vol.60 No.4, 2008

10)大滝純司;シミュレータを活用した看護技術指導。日本看護協会出版会,2008

11)高谷修;看護学生のための自画学習ガイドブック。金芳堂,2008